

# 所 報

## 氷見市教育研究所

氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

〒935-0016 電 話 (0766) 74-8220

F A X (0766) 74-5520

e-mail kyouikukenkkyu@city.himi.lg.jp

ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

menu000000500-hpg000000416.htm



### 「終身之計 莫如樹人」

氷見市教育委員会

教育長 前 辻 秋 男

中国の昔からのことわざに「100年先を考えるなら人を育てなさい。」というのがあります。これは、古今を問わず、教育が大切であることを示す言葉であり、本市の大きな政策課題の一つにも「人づくり」を掲げているように、私自身も教育は極めて重要であると認識しています。教育長の就任にあたり、私の所信を3点述べたいと思います。

第1に、『氷見の教育基本方針』のさらなる具現化です。『氷見の教育基本方針』の中にある「ふるさとに学び、思いやりの心をもって、進んで世界に羽ばたく氷見の子供」を目指して、郷土学習や国際理解教育をより充実していきたいと考えております。社会科や総合的な学習の時間において、郷土の偉人について学んだり、その偉人が活躍した地域と交流したりすることを通してふるさと氷見を愛し、力強く活躍した浅野総一郎や斎藤弥九郎の生き方に誇りを持ち、困難なことにも負けず挑戦していく子供の育成に努めたいと考えています。

第2に、「教育環境の整備」です。本市においては、校舎の耐震化や学校統合が喫緊の課題であり、子供たちのよりよい教育環境を一日も早く整備するため、全力を傾注する所存です。併せて、地域からより信頼されるとともに、子供にとって真に魅力のある学校となるよう小・中

学校連携など、望ましい姿について調査研究を推進していきたいと考えています。

第3に、「教師が子供と触れ合う時間の確保」です。教育現場は多忙化が進み、教師が児童生徒とじっくり向き合う時間が減少しています。教師と子供の人間的な触れ合いがあって初めて真の教育が実現できるという考えのもと、子供と触れ合う時間の確保に向け努力したいと考えています。そのため、教育的諸行事の精選や見直しに努め、子供にとって有益なものを見極める姿勢で臨みたいと考えています。

そのほか、教育委員会の事務において、他の部局との連携により、より効果の上がる分野や内部的見直しにより効果的な運営が図られるものがあり、市民の負託に迅速かつ適切にこたえられるような体制について検討を進めていきます。

私は、これまでの教育施策の成果を踏まえ、よいものは残し、改めるべきは改めるという方針のもと、新しい時代にふさわしい施策を推進していきたいと考えております。「心を拼すことにより、そこから道が開ける」という信念で、これまでの行政経験を生かし、目標を設定し、その実現に向け、全力で挑戦していく所存です。教職員の皆様の深いご理解と一層のご協力をお願いいたします。

## 平成20年度 氷見市教育セミナー



学力向上プログラム  
フリーアナウンサー 西藤ひろみ

### 宇波小学校 教諭 高瀬 圭子

互いの意見を評価したり批判したりしながらよりよい解決策を導き出すためには、根拠に基づいた意見を言うことはもとより、相手の意見を傾聴し相互理解することが重要とされています。「PISA型読解力」を育てるとは、単に学力の向上を目指すものではなく、子供たちのコミュニケーション能力を育てるためのものであることが分かりました。コミュニケーション能力の低下による様々な問題を抱えている現代の子供たちにとって、必要不可欠な力であることを感じた講演でした。

### 十三中学校 教諭 小谷内ゆかり

お話を聴いて、生徒たちにPISA型読解力を育てていくことがいかに大切かを痛感しました。急速に国際化し、複雑化する社会の中で、PISA型読解力が読解課題解決能力は、必要不可欠な能力です。生徒たちが、それぞれに自分の考えをもち、他へ発信し、深め合うことができるよう、日々の実践に努めていきたいと思っています。その際、読書の経験を増やすことと、討論する力を育てていくことが大きな鍵になることを、今回の講演で学びました。



有元秀文先生



諸富祥彦先生

### 北部中学校 教諭 村井 和恵

今の生徒とかかわって感じることは自己肯定感の低さです。厳しく指導されることに敏感に反応し、中には萎縮する生徒もいます。

生徒は失敗しながら成長するものです。時にはうそをついたり、ごまかしたりすることもあると思います。今日の講演を聴いて、いけないことをしても感情的にならずに指導し、生徒の尊厳を大切にしていきたいと思いました。また、温かい気持ちで生徒を包み、生徒に期待していただける存在に私自身がなりたいと思いました。

### 窪小学校 教諭 七田 尚美

講師の先生の話術に思わずひき込まれ、エンカウンターゲームを通して、周りの参加者と自然に打ち解けることができました。「学期の始めの3日間が学級づくりの勝負である」という言葉に、身の引き締まる思いがしました。事務的なことに追われがちな学期の始めですが、今回教えていただいたゲームやトークの時間を少しでも取り入れ、子供たちの心を解きほぐし、和やかな雰囲気での2学期のスタートを切りたいと思いました。

## 修学旅行候補地のご案内

### 川崎市産業観光(スタディ・ツーリズム)の勧め

川崎市視察を終えて

水見市立南部中学校  
教諭 村井 幸喜



川崎商工会議所の地域産業部の方と川崎市役所の産業振興部の方にお話しをいただいて、「味の素(株)川崎事業所」「JFEスチール(株)東日本製鉄所」「東芝科学館」の3か所を視察させていただきました。この3か所の視察によって、川崎市の産業遺産や最先端技術の一部に触れることができ、川崎市の産業観光の魅力や素晴らしさを体験・体感することができた。そのことに感謝するとともに、ここで体験・体感したことやいただいた川崎市のたくさんの資料をもとにして、川崎市の産業観光の魅力を組み込んだ修学旅行の企画・実施を検討していきたい。そして、生徒にとって有意義な修学旅行になるよう、誠意をもって取り組んでいきたい。

#### 味の素KK

グルメ番組でおなじみの“うま味”と言う言葉。私たちもよく使う言葉ですが、うま味の成分グルタミン酸は、池田菊苗博士



(明治時代の科学者・日本の十大発明家)が、1908年に発見し、製造特許を取得しました。翌年、うま味調味料「味の素」が発売されました。

グルタミン酸が発見されてから100年、味の素KKでも色々な催しを開催しています。

#### 東芝科学館

コーナーの展示内容の充実にも努めています。青少年を対象とした季節イベントや土曜イベントのタイムリーな企画運営や、出張科学教室やPC教室などの活動にも取り組んでいます。

これからも館運営のハード(展示品・施設)とソフト(プレゼント・案内・サポート・サービス)の両面の改善に取り組み、「驚きと感動」にあふれた魅力ある東芝科学館を目指していきます。



万年時計  
正式名称「万年自鳴鐘」  
「からくり儀右衛門」こと  
田中久重が設計・製作した  
重要文化財(1850年)

#### JFEスチール(京浜地区) 人工島・扇島



(南北約3km・東西約2kmもある広い工場敷地内を、バスで案内してくれます。)

創業以来、常に理想の工場を追究してきました。敷地の拡大、レイアウトの工夫、設備の改善、そして環境保全に真剣に取り組みながら、たゆまない生産活動を続けています。

そうした積み重ねの象徴とも言えるのが、川崎・横浜两市にまたがる東京湾に浮かぶ約550万平方メートル(東京ドーム120個分)の人工島、扇島です。

ここは、高炉・転炉などの鉄鋼部門、厚板・熱延などの圧延部門があり、京浜製鉄業界の核となって日夜活躍しています。これからも、多様化するニーズに対応できるよう、柔軟な発想を結集して、新たな分野への挑戦を展開していきます。

## よくお願いします

水は方円の器に随(したが)う

適応指導教室 教育相談訪問員

澤田 由美子

「大丈夫、大丈夫。」「いいよ、いいよ。」「こんなのも有りだよ。」4月以来、通室してくる子供たちを励ます時に使ってきた言葉です。子供たち一人一人に寄り添い支援しようと意識し過ぎると、過剰なかわりをしてしまうことがあり、子供が心を閉ざすのではないかとひやりとさせられます。

不登校は、心身がオーバーヒートした状態といわれます。子供が元気になるかわりを工夫し、心の居場所づくりをすることが求められます。一言一言に敏感に反応し、細かく予測し、心配する子供たち。きちんとやらないと気のすまない子供たち。オーバーヒートの原因は子供たちのよさの裏返しですが、自信がもてず苦しんでいるようです。「水は、方円の器に随う」という格言に習い、一人一人のよさとかげがえのない存在であることを伝え、元気の源を与えられる支援をしていきたいと思ひます。



皆さん、こんにちは。

国際交流員 (CIR)

ヘザー・ハル

'07年の8月にアメリカからやってきました。現在、英語活動と国際理解の授業を行うため、市内小学校と保育園を回っています。水見に住んで約一年半、子供たちと触れ合いながら、一生記憶に残る大切な思い出がいっぱいできました。最近ある子供に、両親と離れて生きるのはつらくないかと聞かれました。離れていても、同じの空の下で暮らすから大丈夫と答えました。

世界中の大人たちも子供たちも一つの世界に住んで、同じ人間の心をもっています。この小さな星の未来を受け継ぐ子供たちが、globalizationの時代に仲良く暮らせるよう、これからも小学校の先生とともに頑張っていきたいと思ひます。

## 大谷科学賞受賞

市内2校同時受賞の快挙

速川小学校

本校では、「自然体験を通して、豊かな感性を身に付けるとともに、自然現象についての興味や関心を高める」・「身近な地域や自然・地球環境について自ら問題を見つけたり、創造したり、考察したりできる能力を育てる」ことを目標に環境教育を進めている。指導の重点として「豊かな感受性」「問題解決能力の育成」「実践的態度」を掲げ各学年の実態に応じて、具体的な重点を設定し取り組んでいる。また、教科では、生活科・理科を中心に体験的な学習の充実を通して、児童の気付きを大切に主体的で問題解決的な学習を進めている。問題解決的な学習では、これまでの体験や自然現象に意図的に触れ合うことで生まれてくる疑問の中から「不思議だな〜」「どうなってるんだろう」という言葉を大切に一人一人が問題をもつことに時間をかけている。



おめでとうございます

西條中学校

- 身近にある自然の事物・現象を題材として扱ったり、身近にある材料を使って実験・観察を行ったりして、生徒の理科に対する興味・関心を高めている。
- 学習内容に関連ある内容をトピックスとして紹介したり、新聞・雑誌等の記事を教室、理科室、廊下に掲示したりするなどして生徒の知的好奇心を高めている。
- スキナーで読みとった写真や図版を大型プリンターで黒板大にカラー印刷し、活用することで分かる授業に役立っている。
- 授業で使用した写真や図版(黒板大)を学習室(空き教室)に掲示し、生徒がいつでも復習できるようにし、学習内容の定着を図っている。
- 過去の科学作品展入賞作品(市、県)を保存し、授業に活用している。